

USAIDの解体、 どう受け止めるか？

——日本からの視点と論点

トランプ政権下のUSAIDの劇的な解体と機能停止は、一体何が**問題**なのか。それは、**いつから**の問題であり、**どこまで**波及しているか。**日本**に足場を置く国際開発・対外援助の関係者は、どのようにその波紋を受け止めているか。本セミナーは、戦後の政府開発援助の歴史を多様な現実から見つめ直し、さらには日本から国際開発・対外援助の未来を共に**考える・悩む・議論する**有意義な機会となることを望んでいます。

日程：2025年4月19日（土）14:00-17:00（受付開始：13:30）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス・スカイホール（ボアソナード・タワー26階）
（対面のみ、※ チャタムハウスルール適用）

プログラム

趣旨説明・汪牧耘（東京大学）

【第Ⅰ部】現状の把握

最近の国際援助協調と米国の動向・馬杉学治（国際協力機構）

医療・保健分野の視点からみる援助現場の現在・稲場雅紀（アフリカ日本協議会）

【第Ⅱ部】論点の理解

経済・財政にみる援助の位置づけと国益・米山泰揚（国際開発学会所属
（元世界銀行駐日特別代表））

日本のODAの事業仕分け再考・松本悟（法政大学）

【第Ⅲ部】日本への含意

対談・ディスカッション



登壇者のご紹介

【講演者】

馬杉学治（国際協力機構）

1993年都市銀行に入行。都内営業店で法人営業を担当後、外務省経済協力局（当時）への出向を機に開発協力の仕事を知る。銀行復帰後2000年にJICAに入る。JICAでは行政・財政・金融分野の技術協力プロジェクトの企画運営管理や国際援助協調業務などに携わる。2005年から国連開発計画（UNDP）本部に出向し、日本政府との対外窓口担当と、UNDP-JICAの連携強化を推進。コロナ禍前後の4年半駐在したヨルダン事務所では、事務所運営のほか同国の財政改革支援プログラムや資金協力会合に参画。帰国後は審査部で再び金融分野等に携わり、現在は再び国際援助協調企画室で開発パートナーとの協調推進や援助潮流への発信に取り組んでいる。

稲場雅紀（アフリカ日本協議会）

1969年生まれ。90年代初頭から横浜市寿町の日雇労働者の保健・医療問題に取り組み、1994年からは「動くゲイとレズビアンのかい」で性的少数者の人権問題や国内外のエイズ問題に尽力。2002年より「アフリカ日本協議会」国際保健部門ディレクターとしてアフリカのエイズ問題の調査・政策提言に従事。2009年以降は「ミレニアム開発目標」（MDGs）達成のためのNGOネットワーク「動く→動かす」（GCAP Japan）事務局長を務め、2012年からSDGsの形成プロセスに市民社会として参画。2016年のSDGs開始以降はその推進に幅広く取り組み、政府のSDGs推進円卓会議の民間構成員も務める。2017年にはSDGs市民社会ネットワークの設立に関与。国際保健については、NGO30団体が参加する「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」の代表として政府との対話や国際保健政策への提言活動を展開している。

米山泰場（国際開発学会所属、元世界銀行駐日特別代表）

1995年大蔵省（現財務省）入省。フランス国立行政学院（現INSP）留学、内務省在オレアン県庁研修。外務省中東アフリカ局、主計局（ODA予算）、理財局（債務管理）、国際局のほか、アフリカ開発銀行、IMF（アジア太平洋局）を経て、2021年8月、世界銀行駐日特別代表。IDA20開始記念会合（2022年7月、東京日本橋）、広島市・世界銀行共催国際シンポジウム「復興から成長へ」（2023年3月、広島国際会議場）、G7長崎保健大臣会合開催記念国際シンポジウム（2023年5月、長崎大学医学部講堂）、防災国際フォーラム（2024年6月、兵庫県姫路市アクリエひめじ）の日本開催を先導。2024年7月以来、本邦政策金融機関の海外向け出資業務を所掌。

松本悟（法政大学）

1987年、NHK記者としてキャリアをスタートし、その後1992年から1996年までは日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所代表を務めた。1999年から2009年にかけては、特定非営利活動法人メコン・ウォッチの事務局長および代表理事として、メコン川流域の環境と社会問題に取り組んだ。学術界では、一橋大学、東京外国語大学、東京大学、東京工業大学など、日本の主要大学で非常勤講師を歴任。2012年に法政大学国際文化学部准教授に就任し、2016年からは同大学教授として活躍している。2016年から2018年には法政大学大学院国際文化研究科長を務め、2018年から2019年にはタイのチュラロンコン大学アジア研究所客員研究員として研究活動を展開した。2021年から2023年までは法政大学国際文化学部学部長および大学評議員を務め、2025年4月からは法政大学副学長。

【司会・企画者】

汪 牧耘（おう まきうん）

東京大学東アジア藝文書院特任助教。1990年代に中国貴州省生まれ。2018年法政大学大学院国際文化研究科修士課程修了（国際文化）。2022年東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了（国際協力学）。東京大学東洋文化研究所特任研究員を経て、2024年4月より現職。都留文科大学、国際基督教大学非常勤講師。専門は開発学、対外援助研究。「より良い生」をめぐる感覚、記憶や言説の知識化に関心があり、中国や日本、そして東南アジアをフィールドとして、国際開発の学問的な系譜をドキュメント分析と現地調査から浮き彫りにすることを試みている。主要著書には、『中国開発学序説：非欧米社会における学知の形成と展開』（第28回国際開発研究大来賞、法政大学出版局、2024）がある。

【共催】

国際開発学会「開発論の系譜」研究部会 HPは[こちら](#)

東京大学東アジア藝文書院「開発と文学」研究会 HPは[こちら](#)

法政大学大学院メコン・サステナビリティ研究所 HPは[こちら](#)